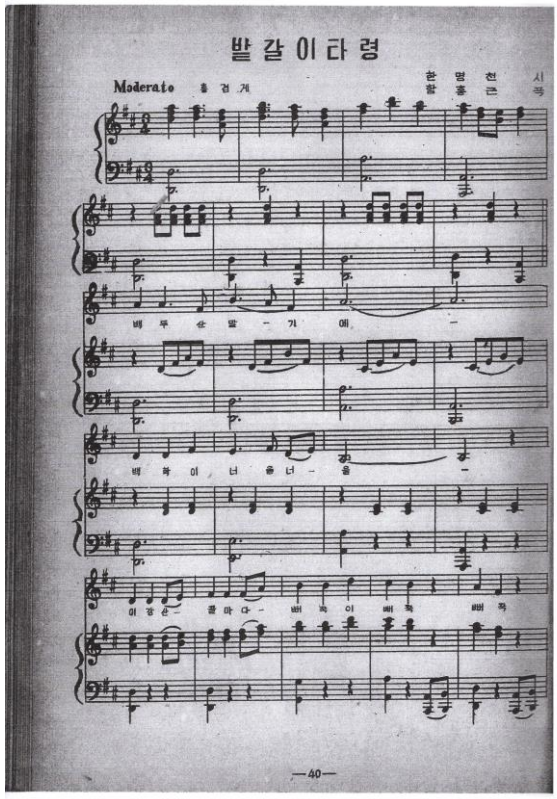
１９５４年の楽譜

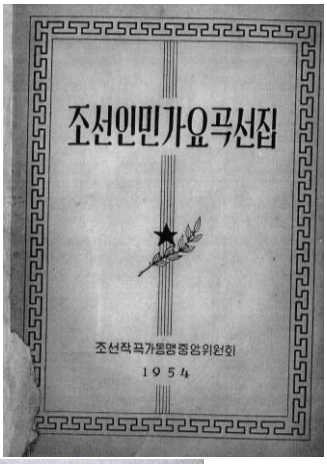
北朝鮮で 1954 年に発行された「朝鮮人民歌謡曲選集」（朝鮮作曲家同盟中央委員会発行）Ｐ40 に掲載された『畑打ち打令』（ﾊﾟｯｶﾘ ﾀｰﾘｮﾝ・밭갈이 타령 1947 年作詞韓鳴泉〔ﾊﾝ・ﾐｮﾝﾁｮﾝ〕、作曲咸弘根〔ﾊﾑ・ﾎﾝｸﾞﾝ〕）を見てみよう。

「楽譜２」

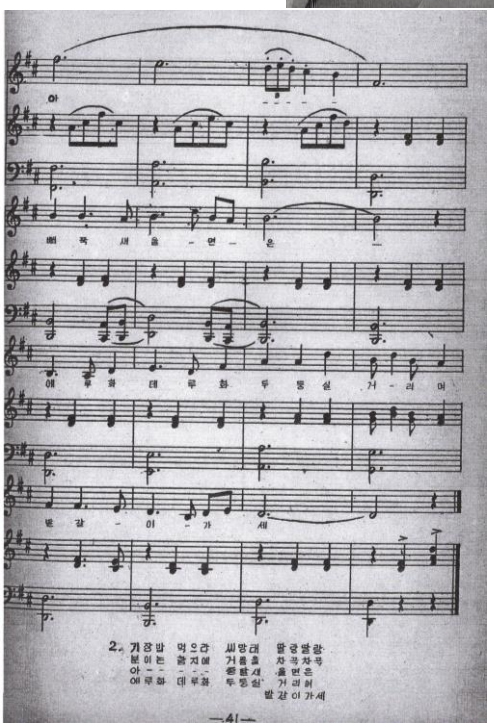


１．白頭山の尾根に　白鶴が舞い降りて
　　この山河 谷ごとに かっこうが ポクーポクーと
　　アー かっこうが鳴けば　エルファ　テルファ
　　トゥドゥンシル 足取り軽く　畑に　行こう
2.기장밥 먹으랴　씨망태 딸랑딸랑
　　분이는　함지에　거름을 차곡 차곡
　　아 －－　－－－　종달새 울면은
　　에루화 데루화 두둥실
　　거리며 밭갈이 가세
キビの飯を食べよう 種の籠がチリンチリン
木の樽には　肥しがチャッポン チャッポン
アー ひばりが鳴けば　エルファ　テルファ
トゥドゥンシル 足取り軽く　畑に　行こう

この歌集は、さいたま市にお住いの東京外国語大学 大学院博士後期課程の金理花（ｷﾑ・ﾘﾌｧ）さんからコピー本をいただいた。大変感謝している。



実は、李チョルウ先生からもいただいたが、「金理花本」の方が鮮明なため今回、引用させていただいた。



２番の歌詞の木の樽は、おそらく「糞将軍」（똥장군）と呼ばれる「肥料樽」であろう。昔の日本の戦闘機ゼロ戦の燃料タンクのような形である。

朝鮮の農家では、別棟で粗末な「厠間」（チュッカン・측간）と呼ばれる便所がある。「糞将軍」を埋め込みその上に２枚の板を渡す。人間は、右下の写真のように板をまたいで用を足す。「糞将軍」に糞尿が溜まれば板をはがして取り出す。それをチゲ（背負子・지게 左写真）に積んで畑まで運び、肥料として使うのである。

日本に紹介（２）

日本で初めて一般向けに北朝鮮の歌謡を紹介した『朝鮮歌曲集』（1964 年、編者：許南麒〔ﾎ・ﾅﾑｷﾞ〕・崔東玉〔ﾁｪ・ﾄﾞﾝｵｸ〕、発行者：矢沢保、音楽の世界社）のＰ50 にも右のように載せられている。「楽譜３」

題名については、『밭갈이 타령』（ﾊﾟｯｶﾘ ﾀｰﾘｮﾝ・畑打ち打令）とハングルで原題を書いているが、『青年歌集』と同じく『畑へ行こう』と意訳している。（畠→畑）

訳詞は、詩人の許南麒：在日朝鮮文学芸術家同盟委員長（奥付による）である。歌詞は１番だけであり鳥‘カッコウ’を日本人になじみ深い‘ホトトギス’に替えている。

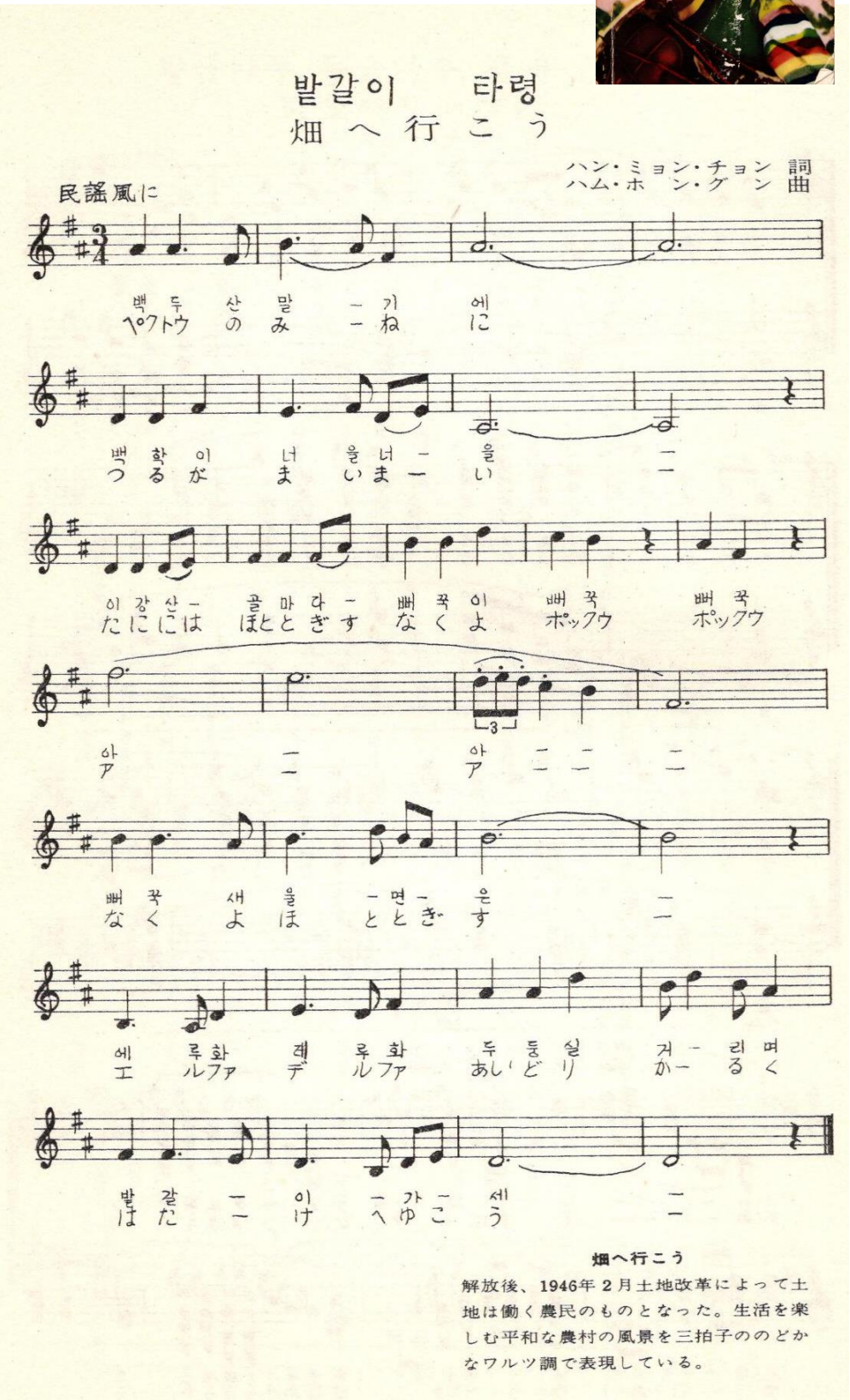
興味深いのは、説明である。

説明は崔東玉：作曲家で在日朝鮮文学芸術家同盟東京本部委員長（奥付による）が書いている。

「解放後、1946 年２月土地改革によって土地は働く農民のものとなった。生活を楽しむ平和な農村の風景を三拍子ののどかなワルツ風で表現している」とある。

この『畑へ 行こう 』の歌詞には、本来的には政治的な要素はないが、1946 年２月に北朝鮮で実施された土地改革と関連付けて、小作農から土地を持ち自作農になった農民の喜びが背景にあり、生活を楽しむ平和な農村の風景を形成していると説明する。

「楽譜３」



畑へ行こう

解放後、1946年２月土地改革によって土地は働く農民のものとなった。生活を楽しむ平和な農村の風景を三拍子ののどかなワルツ調で表現している。

１９６５年の貴重な楽譜

日本で出版された「我らの歌 100 曲集」第２集(ウリノレ100コクチプ２・우리노래 100곡집２／1965年朝鮮青年社発行＝朝鮮語)P156-P162に『밭갈이 타령』（ﾊﾟｯｶﾘ ﾀｰﾘｮﾝ・畑打ち打令）の楽譜が掲載されている。便宜上「楽譜４」とする。この３番まである歌詞はとても貴重である。元々の歌詞の原形を留めているためである。

その後、この歌は、1967 年の唯一思想体系の確立以降には**金日成（ｷﾑ・ｲﾙｿﾝ）首領さま**を讃える歌詞に改詞されてしまうためである。

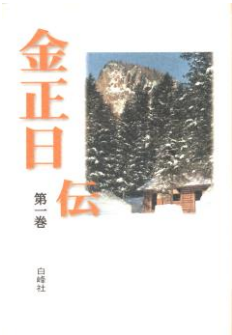
輪唱用の楽譜のため７ページと長いために引用をせず、歌詞だけを書き留めておく。

１．백두산말기에 백학이 너울 너울
　이강산　골마다 뻐꾹이 뻐꾹 뻐꾹
　아 －－　아 －－ 뻐꾹새 울며는
　＊에루화 데루화 두둥실
　거리며 밭갈이 가세
白頭山の尾根に　白鶴が舞い降りて
この山河　谷ごと かっこうが ポクク ポクク
アー　アー　かっこう鳥が鳴けば
＊エルファ　テルファ　トゥドゥンシル
足取り軽く　畑に　行こう

2. 개울'가 실버들 바람에 늠심 늠심
　분이는　함지에　거름을 차곡
　아 －－　아 －－　기름진 이강산
　＊에루화 데루화 두둥실
　거리며 밭갈이 가세
川辺の糸柳　風に吹かれてユラ　ユラ
木の樽には　肥しがチャッポン
アー　アー　豊かなこの山河
＊エルファ　テルファ　トゥドゥンシル
足取り軽く　畑に　行こう

3.기장밥 먹으러　실망태 달랑달랑
　키다리 령감네 물방아 돌고 돌아
　아 －－ 아 －－ 물방아 돌며는
＊에루화 데루화 두둥실
　거리며 밭갈이 가세
キビの飯を食べようと 糸の籠がチリンチリン
ノッポのヨンガム（令監）の水車が回って
アー　アー　水車が回れば
＊エルファ　テルファ　トゥドゥンシル
足取り軽く　畑に　行こう

改詞の過程



引用資料：「金正日伝」（2004 年 著者 朝鮮・金正日伝編纂委員会、編集 チュチェ思想国際研究所、発行株式会社白峰社）P78-P80

5領袖擁護の先頭に立って

1956 年8月の朝鮮労働党中央委員会総会で、反党反革命分子たちは党の路線と政策に反対する暴挙に出たが金日成主席の高い権威と洗練された指導、抗日革命闘士をはじめ総会出席者の原則を貫く闘争によって、その悪らつな策動はただちに明らかにされ、打ち砕かれた。＊山根注：「８月宗派事件」と呼ばれている。（中略）P80 反党反革命分派分子たちが、主席への人民の絶対的な信頼感を失わせようと狡猾に策動し、<u>だれもが愛唱している『畑に 行こう』の歌詞にある「将軍がくれた土地」という表現</u>にまで難癖をつけているときに、主席を称える歌が多くつくられて、人民のあいだで広くうたわれるようになれば、それは分派分子に鉄ついを下すことになるのである。　以下は、趣旨抜粋。

P81 金正日の指示により、人民軍で金日成主席を称える歌の創作が本格的に進められるようになった。そして、ついに人民軍協奏団の創作団は、頌歌『金日成元帥に捧げる歌』〔ｷﾑｲﾙｿﾝｳｫﾝｽｴｹﾞﾊﾟﾁﾇﾝﾙ・김일성원수님께 드리는노래 1956 年作詞ウォン・ジョンソ（元종소）・作曲朴韓奎（ﾊﾟｸ・ﾊﾝｷﾞｭ）〕を完成させ、舞台げいこもして試演会を催す運びになった。

1956 年、金正日は、平壌第１中学校に通う 14 歳で普天堡戦闘革命戦跡地を踏査した。その上に頌歌『金日成元帥に捧げる歌』の創作も指示するとは本当に偉大な指導者である！！！

私が指摘したいのは、<u>だれもが愛唱している『畑に 行こう』の歌詞にある「将軍がくれた土地」という表現</u>である。今まで見てきた歌詞とは異なる歌詞である。1956 年「８月宗派事件」の時、反党反革命分派分子たちは金日成の個人崇拝の事例として歌謡『畑に行こう』の歌詞「金将軍がくれた土地」表現を問題視したことになる。その指摘は当たっているが改詞の時期はもっと後の話である。次回に詳しく述べる。（続く）